福島県教育庁相双教育事務所　総務社会教育課

R8 社会教育 REPORT 18



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX:(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

移動図書館「あづま号」（浪江町：10/29）

浪江町立にじいろこども園

10月29日に浪江町立にじいろこども園に福島県立図書館の移動図書館「あづま号」がやってきました！広場に広げられた様々な本と、たくさんの本を載せた大きなバスを見て、勢いよく本を探しだす子どもたちの姿から、あづま号が来るこの日を心待ちにしていたことが伝わりました。









日頃から絵本や図鑑に触れている子どもたちは、自分の興味や「今見たいもの」がとても明確でした。「ウルトラマンの本」「柴犬の本」「水族館の本」「かわいいくまさんの絵本」と、それぞれが自分の「読みたい！」をしっかりもって本を探していました。

なかなか目的の本が見つからない友達がいると、「あったよ！」「これ探していた本？」と声をかけ合い、協力して見つけ出す微笑ましい姿があちこちで見られました。

◆◇◆◇　紙の絵本がもつ価値　◆◇◆◇

1. ページをめくる楽しさと発見

ページをめくるごとに想像が膨らむつくりになっています。偶然手に取った一冊が、新しい知識や関心につながります。

2. 手渡すぬくもりと会話

本を手渡し、人の声を聞きながら一緒に読む時間は、人とのかかわりや会話を生み出します。

3. 手触りや匂いという体験

紙の触り心地、匂い、絵の広がりなど、実物ならではの五感を通した体験が記憶に残ります。

本が身近にあることで、子どもたちは手から手へと伝わるぬくもりを感じ、『自分は一人じゃない』という安心感と希望を心に育んでいきます。







※　読書活動支援者育成事業相双地区研修会　株式会社瑞雲舎　井上みほ子氏の講演より

子どもがいつでも自由に手を伸ばせる場所に本がある暮らしは、子どもたちの知的好奇心と心の安心を支えてくれます。子どもたちの笑顔を思い浮かべながら本を選び、すぐそばまで届けて出会いのきっかけを作ってくださるあづま号と図書館スタッフの皆様の、役割や想いの大きさを改めて感じる一日となりました。

令和８年１１月９日　発行